

やまがたクリエイティブシティセンターQ1(山形県山形市)

作成時点：2025年12月

クリエイティブと産業をくらしでつなぐ小学校旧校舎のリノベーション事業

学校

複合施設

基本情報



写真出所：Q1 inc.

位置図

山形県山形市本町1丁目5-19

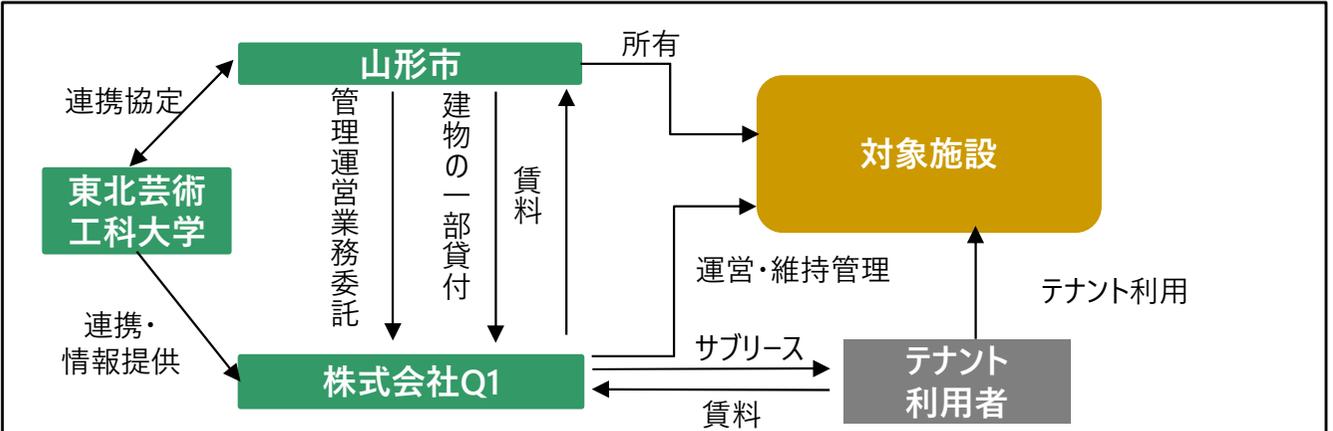


出所：「航空写真」(地理院地図/国土地理院)を事務局にて一部加工して作成

掲載内容に関する問合せ先	山形市文化スポーツ部文化創造都市課 TEL：023-641-1212 Email：bunka@city.yamagata-yamagata.lg.jp
--------------	---

事業主体	山形県山形市（人口：237,631人 ※2025年12月現在）	
事業手法	DO方式 ※管理運営の業務委託契約（年度ごと） 店舗部分の賃貸借契約（2023年4月～2028年3月）	
民間事業者の業務内容	<ul style="list-style-type: none"> 企画開発・維持管理業務（企画開発、保守管理、修繕等） 運営推進業務（入居テナントの募集、イベントの企画実施等） 	
事業期間	設計・施工 2019年6月～2022年8月、運営 2022年9月～	
事業費等	<ul style="list-style-type: none"> 施設改修費（設計・施工） 約1,219百万円 管理運営費 約65百万円※運営開始から施設の運営に要した経費 	
活用した補助金	<ul style="list-style-type: none"> 地方創生拠点整備交付金 地方創生推進交付金 デジタル田園都市国家構想推進交付金 	
事業者	株式会社Q1	
事業経緯	<ul style="list-style-type: none"> 2019年04月 2020年04月 2022年04月 2022年09月 	<ul style="list-style-type: none"> 基本設計業務委託契約締結（株式会社オープン・イー） Q1プロジェクト推進事業に関する連携協定締結（東北芸術工科大学） 賃貸借契約締結（株式会社Q1） 開業

事業スキーム図



やまがたクリエイティブシティセンターQ1(山形県山形市)

作成時点：令和7年12月

クリエイティブと産業をくらしでつなぐ小学校旧校舎のリノベーション事業

学校

複合施設

検討経緯

- 新校舎の完成に伴い山形市立第一小学校旧校舎は2004年に校舎としての役割を終えた。2010年から観光・交流・学びの拠点「山形まなび館」として活用を開始したが、地下と1階のみの活用（2階と3階は閉鎖）となっており、十分に建物を活用できていない状態であった。（旧校舎は2001年に国の登録有形文化財に指定。）
- 山形市は老朽化と空間余剰の課題を抱える旧校舎を活用し、クリエイティブな交流拠点へと再生する方針を検討した。2019年から約3年間の実験期間を設け、株式会社Q1によるトライアル運営を通じて交流拠点のあり方を議論・調整し、まちのクリエイティブを身近に感じられる創造都市やまがたの拠点施設として2022年にオープンした。

取組のポイント

- 市内に立地する東北芸術工科大学との連携協定に基づき、官民連携で施設を運営し、市が目指す創造都市としての取組を推進している。
- 市は株式会社Q1とテナント部分について賃貸借契約を締結し、それ以外の部分は業務委託で管理するハイブリッド型のスキームを採用した。これにより、行政と民間の責任区分が明確になり、民間の創造性を最大限に発揮しつつ、行政が安定的に支える公民連携の実現につながった。
- 施設の運営・管理に関するリスク分担について上記スキームにより整理した上で、株式会社Q1が貸付部分で得た利益の一部を市へ還元することで市の経費負担を抑えながら質の高いサービスを安定的に提供できる仕組みになっている。

得られた効果

- アートや音楽などクリエイティブなイベントを定期的で開催しており、アパレル店やカフェ等のテナントも充実しているため、市民が日常的に訪れる**地域の賑わいの場**となっている。
- 利活用後の山形市の年間管理運営経費（業務委託料）負担は、施設の前身である「山形まなび館」（施設の地下と1階のみ活用）の頃と同程度にもかかわらず、**施設の全館活用**を達成し、空間余剰の課題を解決した。

■ 利活用前



■ 利活用後



(学校入口→施設入口)



(教室→アパレル店)



(イベントで賑わう様子)



(教室→カフェ)

写真出所：Q1 inc.、山形市